

ひきこもりの若者支援のための「対人援助講座」

NPO 法人 南大阪サポートネット

〒589-0011 大阪府大阪狭山市半田 6-1179

助成事業の概要

ひきこもり当事者を対象とした対人援助の基礎力を持ち伴走者となれる人員育成のための講座と学習会を実施

(1) 2022年6月21日

「何度でも RE スタート」～わたしもできる育ちなおし～

(2) 2022年7月10日

ピアサポートグループ

(3) ～(11) 2022年10月15日～2023年2月12日

「stepbystep いっぽいっぽ」～外に出にくい人の『こころ』を理解する～

- ・「生きづらさと自己肯定感」・「自己肯定感が高くなると生きやすくなる？」
- ・「生きづらさの背景にあるものを知る」・「背景にある社会課題とは？」
- ・「わたし」を知ることで関わり方も見えてくる・温かな視点で振り返る
- ・気持ちが温かくなる対話のコツ・社会と繋がりを持つ
- ・生きやすくなるつながりを持つ

(12)2023年1月22日

「ひきこもっている人とその家族の将来を経済面から考える」

事業の成果

実施講座においては対人援助に関わる人が、まず必要である基礎知識に触れることを目的とし

た。「ひきこもり」という現象は起因も違えば、年齢・自認性別・地域・家庭環境・社会的環境も複雑に絡み合い、加えて個人のパーソナリティが大きく影響しているので支援を考える時に、一括りにしたり区分することが大変困難であり、一人ひとりのケースとして取り組むにはマンパワー不足という実態がある。

今回は一人ひとりを大切にしたいサポート伴走を続けるために「ひきこもり」に関する知識を持ち、温かく寄り添い続ける気持ちをひとりでも多くの人に持ってもらう機会としては大変有効であった。まず参加者の構成が「当事者」「当事者家族」「支援者」「地域市民」とバラエティに富んでいたことと一定数の初参加があった。それぞれの立場の気持ちを聴き合い、理解する上でも貴重な機会となった。また年度を超えた継続参加者があったことは今後の継続支援体制を構築の基盤となる。

各講演を通しては身近な支援者として寄り添う時に必要な知識を得ることが出来たと同時に「支援者支援」という概念がとても大切であることも学んだ。当事者自身にとって一番身近な支援者は家族であり、親であることが多い。一緒に暮らす中で家族だからこそ理解し見えてくることもあるが、逆に近い関係だからこそお互いに当たり前になりすぎていたり、近すぎてお互いが苦しい状況になったりすることもある。身近な支援者だけで出来ることは限られているので、支える側が仲間を作り繋がりを広げておくと行き詰まる前に必要な手立てがとれる。そういった意味でも共に学ぶ機会を持たせた受講者が繋がりを作り、お互いに支え合う関係性を作るための第一歩にも

なったという成果は大きい。特に後半には自分たちで「本当に使える窓口マップ」の作成など具体的な提案があり始動する予定である。

■ 成果の広報・公表

今回の講座・学習会の実施報告や受講者の声を、当団体の発行物や LINE 公式アカウント、ホームページ、フェイスブックなどで順次発信していく。報告掲載並びに、引き続き計画しているピアサポーターに関する学びの機会を掲載した機関紙やチラシなどは当法人の会員、協力者、関係団体などに配布する。

併せて公民館や図書館、市民活動支援センターなどの公的機関に配架をしてもらう。

また行政や社会福祉協議会をはじめ公的な支援窓口や機関には、今回の実施報告の公表をすると共に、現在企画中の「本当に使える近隣ひきこもり支援窓口マップ（仮称）」作成への協力依頼時に当法人の活動実績としても活用していく。

■ 今後の展開

講演会後半に受講者との対話の中で発案があった「本当に使える近隣支援窓口マップ（仮称）」作成を具体的に進めていく。

多くの「ひきこもり当事者や家族」はその事実を近隣や地域に知られることを警戒する。そこで社会福祉制度を活用するための行政区に縛られず、少し範囲を拡げたエリアでの繋がりを持てる民間である強みを活かした情報マップを作り、困っている人が支援につながるための第一歩をサポートしていけるようなものにする。

そのために今回の講座を通して様々な立場の人が繋がり、協力体制を作る基盤が出来たことを活かしていく。特に当事者性を持つ「困っている人」が参画し「欲しい情報」をまとめていくことで本

当に使えるものになると考える。

これらを進めていく上で不可欠なことは学び続ける機会の提供である。今後も自己研鑽の場を作るとともに、より専門性のある学びをする機会（講座）も実施する。